

2015年7月1日から2018年12月31日の期間にもの忘れ外来にて

レビー小体型認知症と診断された患者さまへ

#### 研究の概要について

認知症のうち、アルツハイマー型認知症の次に多いとされているレビー小体型認知症があります。レビー小体型認知症の特徴のひとつとして、初期から視空間認知機能の障害が顕著にみられます。この障害は物と物との位置関係がうまく認識できなくなり、日常生活に様々な影響が現れます。視空間認知機能評価をするために、図形を模写する検査が広く行われ、診断の際にとっても役立ちます。しかし、正誤の評価はできてもどのような間違いが多いのかといった質的な研究は進んでいません。そこで、初期のレビー小体型認知症において、模写された図形にどのような誤りがみられるのか、またどのように変化していくのかを詳細に検討することで、レビー小体型認知症の視空間認知機能をあきらかにし、鑑別診断への貢献、ひいては生活支援へとつなげていくことを目的としています。

研究課題名：初期 DLB における図形模写の経過の質的検討

研究期間：倫理委員会承認日から 2020 年 3 月 31 日まで

研究責任者：今村 陽子 東京都健康長寿医療センター 精神科 主任

研究実施責任者：今村 陽子 東京都健康長寿医療センター 精神科 主任

#### 研究の方法について

もの忘れ外来を受診された患者様の基本的背景（年齢、性別、教育年数）、認知機能検査（改訂長谷川式簡易知能評価スケール：HDS-R、MMSE：Mini Mental State Examination：MMSE、時計描画テスト：CDT、透視立方体模写）、画像検査等のデータを集積させていただきます。医師の診察にてレビー小体型認知症の診断を受けた方々につきまして、模写図形を認知機能検査実施者 2 名以上が誤りの質を分類、評価し、誤りの出現頻度について比較します。

#### 資料の保管 他の研究への利用について

本研究を行うときには、個人情報とは完全に分離した形で扱っており、患者さんの個人情報 が漏れる心配はありません。また、国内外に研究の成果を論文・学会等で発表する場合も、個人の特定はできないようにしております。他の研究への利用はありません。また、今回使用された研究データは研究責任者によって管理し、研究終了後には破棄いたします。対象となることをご希望されない患者さん、ご家族さまは以下までご連絡ください。

問い合わせ先

〒173-0015

東京都板橋区栄町 35-2

東京都健康長寿医療センター 精神科 今村陽子

03-3964-1141（内線 5136）

